全労連社会保障闘争本部ニュース No.158 2021 年 5 月 19 日

介護・ヘルパーネット NEWS ⑦

全国労働組合総連合〒113－8462　文京区湯島２－４－４全労連会館４階　℡03-5842-5611

5 月介護をよくするアクション月間

NO！病床削減推進、75 歳以上医療費 2 倍化！ YES！介護・医療の処遇改善と人員増！ 巣鴨駅前で介護宣伝　署名次つぎ―東京

全労連介護・ヘルパーネットは 5 月 14 日昼、中央社保協や民医連、東京社保協とともに介護をよくするアクション月間の巣鴨駅前宣伝に取り組みました。

コロナ感染拡大の下でしたが、国会で悪法が強行されるもとで、マイク宣伝とスタンディングを中心に、署名も呼びかけました。終了間際、女性が署名用紙を 1 枚ずつ計 4 枚、「送ります」と持ち帰りました。「立っているだけじゃなく、署名をもっと呼びかけたらどうですか」と言われた夫婦。「コロナの関係で…」と説明すると、「私たちが署名します」と夫婦で署名。「介護のことは頑張ってほしい」「一枚だけですいません」と言い、高齢の男性が介護署名をしていきました。(Twitter で動画見られます@kaigo2smile)

新自由主義の政治がいまの危機的状況を生み出した　―全労連　前田副議長

全労連の前田副議長は、「いま大阪では搬送先が決まらず 48 時間も救急車の中に待機させられた人がい

たり、15000 人もの人が陽性でもホテルにも入れず自宅待機を余儀なくされている。保健師の数も足りずきめ細かな対応もされずにいる」と述べ、「安倍さんや菅さんの自民党や大阪・維新、東京・小池知事などの新自由主義的政治によって今の危機的状況が生み出された」と指摘。「コロナ禍の中、自助努力は限界だ。公的責任を果たせ」と訴えました。「いま参院で審議中の病床削減推進法案について、菅さんは『それはそれ、これはこれ』など言い、止める気がない。政治を変えよう」と呼びかけました。

コロナ禍での介護・医療現場の実態、処遇改善と人員増、高齢者の人権保障求め訴え

日本医労連の米沢哲書記次長や寺田雄中央執行委員、東京医労連の久保さんなどが次々発言、コロナ禍での介護現場の実態、処遇改善と人員増を訴え、署名への協力を呼びかけました。

日本高齢期運動連絡会は「政府は、病院にかかりにくくさせるために、病床を減らしたら補助金が出る法案や、75 歳以上の医療費窓口負担 2 倍化にする法案を提出し国会で審議されている。憲法に反し、高齢者の人権を踏みにじるとんでもない法案だ」として、政治を変えようと訴えました。

全労連寺園通江・社会保障闘争本部事務局長は「看護も介護も経験と技術が求められる仕事だ。コロナ禍で過酷な勤務をしながら頑張ってきたのに、介護報酬引き上げはたった 0.7%、病床削減に消費税 195 億円出してよいという法案を審議している。働き続けたくても安い賃金と過酷な勤務でやめていった仲間がたくさんいる」と述べ、報酬引き上げと病床削減法案の撤回を求めました。

――――介護現場の訴え――――――――――――――――――――――――――――

「マクドナルドより低い賃金に傷つけられる誇り」「中学に入ったら野球をやめると息子に言われた」
―高齢化が進むなか職員の処遇は医療・介護の質にかかわる大きな問題　米沢さん

一生懸命働いてもマクドナルドの時給より低いと言われ誇りを傷つけられたり、息子から「お金がかかるから中学に入ったら野球をやめる」と言われたり、そんな思いの中で働いている介護労働者がたくさんいる。この間、皆さんのおかげで処遇改善が進んできたが、まだまだ働き続けられずに辞めていく介護労働者がたくさんいる。

クラスターが発生した介護現場の労働者の話を聞いた。「陽性者が出たが医療もひっ迫していて受け入れてもらえない。職員の感染者も出てただでさえ少ない人員体制に追い打ちをかけた。感染防止の設備が病院とは違う中、家族にうつすまいとホテルに泊まりながら必死に支えたが、感染が収まった介護現場には職員の軋轢が残った」という。

高齢化が進む中で働く人の処遇は医療・介護の質にかかわる大きな問題だ。政府は社会保障抑制政策でベッドを減らし介護保険を使えなくさせているが、多くの国民に知らされていない。署名にご協力を

「手袋、ガウンが高騰して買えない」「慰労金取得しても昨年より収入が下がった 4 割超」
医労連アンケートに寄せられた声を紹介 - 寺田さん

介護事業所は過去最高の事業所倒産、撤退、廃業となり、介護難民も生まれている。厚生労働省は介護の仕事が社会維持に欠かせない仕事との考え方を示したが、介護で働く人がいない実態になっている。医労連のアンケートには「手袋、ガウンが足りない」との声が寄せられている。「購入できるようになったが、価格が高騰し買えない」「4 月から介護報酬が 0.7%引き上げられたが、経費があがっている」「ガウンが買えなくてごみ袋をかぶってガウンの代わりにして仕事をしている人がいる」など。「介護労働者への慰労金を取得しているにもかかわらず昨年より収入が減った」との回答が 4 割超え、「昨年の水準維持」も 4 割。慰労金がなければ賃金を維持できない介護崩壊が起こっている。

一定症状が安定したコロナ患者を受け入

れている施設からは、「認知症対応でコロナ対策が後手に回っている」との声も寄せられている。コロナ患者が発生した時に病院に連れていきたくても搬送先が見つからず、施設で看ている間に亡くなってしまったという報道もあった。介護の現場大変です。皆様の温かいご支持、そして介護労働者励ますエールを。

コロナ禍で明らかになった介護労働者の社会的役割、高い専門性にふさわしい賃金を
医療も介護も人員が全く足りない　コロナに打ち勝つため国は責任はたせ―久保さん

緊急事態宣言下で医療体制切迫しているという報道がたくさんされているが、介護の現場も本当に厳しい状況にある。介護の仕事は三密避けられない。自分の感染はもちろん、利用者にうつすのではないかという不安の中で働いている。施設でも、在宅でも同じ。感染対策強化には普段の仕事以上の負荷がかかる。消毒一つとっても大きな負担になる。介護現場はもともと食事介助、入浴介助、排せつ介助でだけで一日終わる、一人職員が休むだけで現場が回らなくなるような状況なのにプラスの業務がのしかかっている。そのような状況が一年以上続き、現場は疲弊し限界を迎えている。人を増やしてほしい。そのために低すぎる賃金水準を何とかしてほしい。全産業平均と比較して月額 8 万円、年間 100 万円以上の差がある。

介護労働者の社会的必要性、高い専門性はコロナ禍の中で明らかになり、魅力もやりがいも大きい。だからこそ、それにふさわしい賃金を保障してほしい。ひとたび利用者さんに感染者が出れば、驚くべきことに利用者さん宅まで行って唾液から PCR 検査のための検体を採取する。介護職がやっている。

国からの支援はリスクに見合ったものになっていない。全然足りてない。4 月からわずかだが介護報酬が上がったが感染対策たったの 0.05%、それでいいのか。感染症対策が利用者負担を求めるものになっている。それでいいのか。誰も経験したことのない感染症から国民を守っている介護職、介護は社会保障の一つなのに、感染予防したから利用者が負担してくれなんておかしい。

経営厳しいからと賃金が下がっている。担い手がいなくなれば介護崩壊してしまう。介護労働者も事業所も利用者も守るためには国が責任もって、必要な財政支援を。

医療の病床削減もしている。驚きませんか。消費税を財源にやろうとしている。消費税 10%上げるときは社会保障に使うと言っていた。病床削減が社会保障なのか、75 歳以上の窓口負担引き上げ、こんなことが今行われていることが信じられない。医療も介護も人員が全く足りていない状態だ。今こそ、コロナに打ち勝つためには国が責任もって解決していくことが必要だ。

病床削減推進法の採決が ５ 月20日、参院厚労委員会で予定されています。14時半からいのち署名と介護署名提集会を行いますが、採決されたら抗議集会になります。ツイッター配信するので是非、参加してください

いのち署名採択めざす５・２０中央行動

① 時間：14：30～16：30　②場所：衆議院第一会館大会議室
③ ツイッターで動画配信　twitter.com/zenroren
④ 主催：全労連・国民春闘共闘・中央社保協・医団連・医療三単産
⑤ タイムテーブル
14：00：受付開始
14：30　開会　/　主催者挨拶　/　経過説明と行動提起
紹介議員からの激励あいさつ　/　署名提出　/　国会議員請の進め方の提起
15：30　紹介議員訪問
16：30　まとめ・閉会のあいさつ

6.23 新介護署名スタート集会

日時：2021 年 6 月 23 日（水）15 時～17 時（14:30 受付開始）
会場：参議院議員会館　を予定